

平成14年8月26日

国立市議会議長 小沢 靖子 様

赤い三角屋根の国立駅舎の保存活用を求める陳情

陳情要旨

現国立駅舎は、JR中央線立体交差事業に伴って近々取り壊されると聞き及んでいます。

私どもは、現国立駅舎の建物が、国立のまちづくりにおいて、歴史的にも景観的にも重要な位置を占めていること、広く市民に愛されていること、また、国立のシンボルとしていろいろな形で活用されていること等を再確認してまいりました。

その駅舎が解体されてなくなってしまうのは、誠に残念な事と言わざるを得ません。

私どもは、現国立駅舎の建物が、中央線高架事業に伴う国立駅周辺の再開発の後に、たとえ駅機能がなくなっても、新しい形で市民に活用されていく事を願っています。

そこで、以下の点につき、陳情をさせていただきます。

陳情事項

1. 赤い三角屋根の国立駅舎の保存と市民による活用が、まちづくりの契機の一つとして実現するように、国立市及び東京都、JR東日本(株)等関係各位に要望して頂きたい。
2. 赤い三角屋根の国立駅舎の保存活用について、国立市、東京都、JR東日本(株)、そして市民で、共に話し合う場の設定を、市に要望して頂きたい。 以上

東京都知事
東日本旅客鉄道株式会社社長
国立市長

石原 慎太郎殿
大塚 陸毅 殿
上原 公子 殿

平成 14 年〇月〇日

赤い三角屋根の会 国立駅舎を活かす会 会長 伊藤 孜

JR 国立駅舎の保存活用に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

国立駅舎の解体が発表されて以来、私たちは駅舎の行方に関心を寄せると共に、国立のまちの歴史や文化、個性を見直し、駅舎が果たしてきた役割について再認識してまいりました。

国立駅舎は国立のまちを象徴する建物です

- ・大正 15 年建設の歴史ある建物で、都内の木造駅舎の中で原宿駅（大正 13 年）に続く二番目の古さです。
- ・駅前広場や大学通りと共に国立のまちと一体となつてつくられ、まちの風景に溶け込んでいます。
- ・赤い三角屋根が印象的なイギリス田園都市の小住宅風デザインは、文化的都市を象徴していました。
- ・三角屋根の駅舎の元祖であり、多くの駅のデザインの手本とされました。

駅舎は、国立市民はもちろん、市外の人々にも親しまれています

- ・市民向けアンケートで駅舎は「国立らしい風景」、「好きな風景」として、常に上位にランクされています。
- ・国立の桜祭りで実施したアンケート(平成 13 年 4 月)では、9 割近くが駅舎の解体に反対しています。
- ・国立駅をモチーフにした菓子、文房具等が販売され、商工会のマークにも用いられています。
- ・「関東の駅 100 選」に選ばれています。

都市計画や建築・土木の専門家も、国立のまちの中で駅舎が果たす役割や価値に注目しています。

平成 11 年度には、都市計画・建築・土木の学識経験者が調査を行い、駅舎の価値及び国立の開発当時の都市計画について極めて高い評価を与えています。そこでは特に駅舎、駅前広場、大学通り等のどれか一つの要素でも欠ければ国立らしさが大きく損なわれるという指摘がなされています。それだけではなく、現駅舎の活用が、新しい高架駅を中心とする駅周辺の魅力や機能向上に大きく貢献する、と提言されています。

平成 13 年度の都市計画学会においては「国立大學町の計画について」が発表され、国立駅舎及び国立のまちについての再評価がされております。

駅舎がなくなってしまうとは、このような国立のまちの魅力はなくなってしまいます

私たちは、国立のまちの歴史や文化的景観を形成し、大学通りやまちの景観と一体となった、かけがいのない国立駅舎の価値や役割が、後世に向けて活かされ続けることを要望いたします。

JR 中央線連続立体交差事業は、踏み切りや線路による交通遮断や渋滞、分断を解消し、駅の南北を繋ぐ事業でもあります。私たちは、この事業を契機に国立駅舎を保存することで駅舎を有効に活用し、よりよい駅前空間の将来像が実現できるものと考え、国立駅の将来像を共に検討していきたいと思っております。

どうぞ国立駅舎の保存活用について、再度ご高配賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具